

国際バカロレア®・オンライン・ワークショップの 枠組みとコンテンツ設計の特徴

Features of the framework and content design of
the International Baccalaureate® Online Workshop

野田 啓子*,** 合田 美子** 鈴木 克明**
Keiko NODA Yoshiko GODA Katsuaki SUZUKI
武藏野大学* 熊本大学**
Musashino University Kumamoto University

＜あらまし＞国際バカロレア機構では、国際バカロレア教育に携わるスタッフを対象とした Professional Development の一環として、定期的にワークショップを開催している。本研究では、2016年5月に実施し、筆者が受講したオンライン・ワークショップの事例を紹介するとともに、成人学習者にとって学びやすい環境およびやる気を持続・継続させるようなコンテンツ作りがどのようになされているのか、e ラーニングの質保証レイヤーモデル(鈴木 2006)を用いて、オンライン・コースの枠組みとコンテンツ設計の特徴を明らかにする。

＜キーワード＞ 遠隔教育・学習 インストラクショナルデザイン 社会人教育
生涯学習 教師教育 現職教育

1.はじめに

国際バカロレア®(IB) 教育とは、1968年にスイスで設立された非営利団体による世界水準の教育プログラムである。国際バカロレア機構 (IBO) が要求する条件を全て満たすことでプログラムを実施できる「認定校」となる。認定を目指す学校の教職員が IBO の主催する「ワークショップ」を受講し、修了することも認定条件の一つである。

2.研究の背景

IBO の主催する「ワークショップ」には、対面型とオンライン型がある。オンライン型には世界各地からの学習者が集まり、多様な立場から活発な学習が行われ、知識と実務スキル育成、やる気を喚起する仕組み等、成人学習者が学びやすいコースの優良事例（グッドプラクティス）であると言える。当該コースにおける教授設計の特徴を明らかにすることは、我が国における IB 教育に携わる成人学習者の能力開発の高度化に資するものと期待される。

3.目的

成人学習者にとって学びやすい環境、やる気を持続・継続させる設計について、e ラーニングの質保証レイヤーモデル(鈴木 2006)を用いて、第一

筆者の受講したコンテンツを取り上げて設計の特徴を明らかにする。

4.コース概要

IBO では、IB 教育において必要とされる役職向け (Administration=管理職、Coordination=プログラム運営の核となる教職員) および教科担当教員向けに多様な言語で開催している。オンライン型については、英語・フランス語・スペイン語の3か国語のみの提供であり、オランダのハーグにある Online Professional Development チームを中心開発・運営されている。1 コースにつき 4 週間、費用は 600 ドル（約 6 万円）である。1 コースは 25 名程度、ファシリテータが 1 名 (IBO から委託された IB 教育領域の専門家=SME) 配置され、ディスカッションのモダレータ、議論のまとめ、課題の採点なども行う。ここでは、Coordination (Category 1=入門編) のコースを例として取り上げる。

5.コンテンツ

コンテンツは、IB Online Professional Development Team が開発し、定期的に見直しが行っている。コースプラットフォームは Moodle をベースとしたもので、自分のペースで進める (Learning-at-your own pace) 形式ではなく、学習

する期間とコンテンツが決まっている一斉学習形式 (Cohort Based Learning) となっている。学習者は定められた期間内に指定された課題を提出しなければならない。

5.1. 学習方法

コースは4つのモジュールから成り、修了の要件 (Completion criteria) として、(1)1日に1回は必ずログインすること、(2)1つの課題に対して2件以上投稿すること、(3)協調学習および能動的に学ぶ姿勢を持つこと、等の条件が提示されている。各モジュールでは3~4つのトピック（課題）が出され、ディスカッションフォーラムに期間内に投稿・コメントする。Moodleの機能である「Learning Journal」や「Wiki」を用いたQ&Aづくりなどのワークが実施される。

5.2. 設計の特徴

教材は、テキストベースであり、講義ビデオ（動画）は用いない。教材はIBOが提供する様々な文書 (OCC: Online Curriculum Centre) からダウンロードして閲覧する。モジュールの最初にはファシリテータから説明がメールで届き、受講者の興味・やる気を喚起している。期間中には、ディスカッションフォーラムによる協調学習 (Collaborative learning) の形式を取り、受講者同士が互いの経験や知見から学んでいく。モジュールでは、自分の意見を述べるというものだけではなく、成果物が求められる。IBに特有な時間割編成の案、生徒に課される科目的試験日程・成績通知の締め切りなど、Coordinatorとしての実務をシミュレーションする形で、実際の業務に直結する課題を行うことで、知識習得よりは、業務遂行能力を養う Just-in-time な学びを提供することが特徴的である。

6. e ラーニングの質保証レイヤーモデルとの対応

e ラーニングにおけるドロップアウトを防ぎ、4週間継続し、修了証 (Certificate of Attendance)を得ることが、IB教育を実践するために必須であることが強い外発的動機づけとして働いていることは想像に難くない。しかしながら、様々な制約を持つ成人学習者にとって学びやすい環境、やる気を持続・継続させる設計がなされているのかどうか、e ラーニングの質保証レイヤーモデル

(鈴木 2006)を用いて第一筆者が抽出した（表1）。

表1 e レイヤーモデルとの対応

レイヤーモデル	IB Online Course
3 学びたさ	IB教育への興味、知的好奇心、向上心、仕事上の要求、就職や昇進への動機づけ、プロとしての矜持
2 学びやすさ	Categoryに細分化され、レベルに応じた内容の提供、受講者同士の協調学習と経験交流
1 わかりやすさ	Moodleの使い勝手の良さ、テキスト中心（動画なし）、OCCなど豊富な参考資料の提供、ファシリテーターからのサポート
0 うそのなさ	IBOの公式コースであること、SMEがファシリテート
-1 いらつきのなさ	Moodleのレスポンスの速さ、テキストなのでインターネット回線の帯域を選ばない、ヘルプデスクの整備

7. まとめと今後の課題

成人学習者がやる気を持って、学びやすい環境をオンラインで提供することによって、Professional Developmentに向けたe ラーニングの役割はさらに大きくなるだろう。当該コースは日本語での提供はないが、今後日本でIB教育が普及するにしたがって、日本語での提供も予想される。今後は、レイヤーモデルを使った分析の精緻化と、受講生の「やる気」の継続度合いや学んだことを省察し、学びたさを発展させる仕組みについて、テキスト分析等を用いてさらに調査していくたい。

参考文献

- 鈴木克明(2006)IDの視点で大学教育をデザインする
鳥瞰図:e ラーニングの質保証レイヤーモデルの提案、日本教育工学会第22回講演論文集、337-338
国際バカロレア機構 Professional Development
<http://www.ibo.org/professional-development/>
(2016年7月4日アクセス)
- 文部科学省(2008)学習者等の視点に立った適切なe-Learningの在り方に関する調査研究
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/08090305/012.htm (2016年7月4日アクセス)